

学校評価特集号NO2 にこにこ 笑顔いっぱい

あいさつ



H29 年度、PTA の教育奨励費からも少し補助をいただき、黄色いたすきを作りました。児童会や生活安全委員会など、主に高学年があいさつ運動の時に使うものです。あいさつ日本一を目指そうと、学校全体で取り組んでおり、低学年でも、進んであいさつ運動を続けている子どもたちがいます。そこで、低学年用に、サイズ少し小さめのピンクのあいさつ運動のたすきを作りました。費用は、新たに H30 年度にいただいた地震の義援金、青少年育成協議会の予算やボランティア協力校の予算、PTA 教育奨励費の一部から出させてもらいました。

「何があいさつ日本一だ！」と思われる保護者もおられるかもしれませんが、やめてしまったら、すぐ、あいさつをしない美咲野小の子どもになると思います。今でも、私が正門前で何回もあいさつをしても、顔を見てあいさつしても、素通りする子もいます。しかし、立ち止まって頭を下げてあいさつする子も確実に多くなっています。正門前の旗当番の保護者の方も、努めてあいさつして下さっているのが分かります。あいさつも、学校だけの問題ではありません。美咲野を住みよい町にするためにも、これからも学校、地域、保護者が一つになって続けていくことが大事だと私は思っています。集会では、いつも「今年の漢字は『続』です。みんなで続けていきましょう。」と子どもたちには話しています。

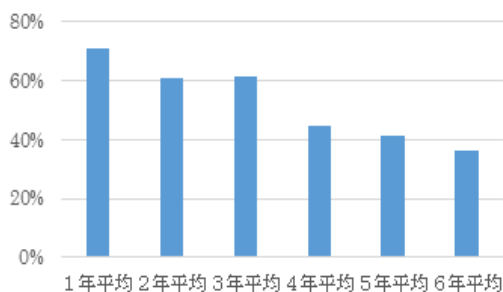
続

美咲野小だより

NO.16
H31.3.14
大津町立
美咲野小学校
文責：草場ルミ子

ルール・マナーを守ること

社会のルールやマナーを守っている
(「あてはまる」と回答した児童)



右のような、保護者のご意見もいただいております。学校で子どものよくない行動について指導した際、ほとんどの場合、担任から保護者へ連絡をしていますが、その際、その指導に対してクレームを言われる方も少なくありません。何が善で何がダメなのか、難しい社会になっています。せめて小学校の間は、周りのすべての大人で「ダメなことはダメ!」「いいことはいい!」と、同じ価値観で子どもたちに伝えたいものです。子どもたちが社会人になったとき、真に困らないようにするためには、今どうしたらいいかをみんなで考えていきたいものです。

下は職員の意見です。

職員の声

- ルールやマナーを守ること、自分も安全、みんなも平和に過ごせるということを学校でも家庭でも子どもたちに話していくことが大切だと思う。
- 「家庭と学校の違い」を理解させることも必要では?
- 全クラスで同じ意識で取り組まないと、やるクラスとやらないクラスが出てくる。それは、子どもたちの中に不満や不信感を生むことにつながる。
- 全職員、同じ姿勢で指導すべきです。

左のグラフは「社会のルールやマナーを守っている」という問いに「当てはまる」と回答した子どもの割合を学年別に見たものです。高学年になるにしたがい低くなっています。

いろんな先生たちから聞こえてくる話で、大変気になっていることがあります。

土足をしていた子どもを見かけた先生が「そこは上ぐつで行っちゃダメだよ!」と注意したのに『このくらいいいでしょ!』とばかりにそのまま通り過ぎたという話。

授業中、「これをしなさい!」との指示に「何ですか?」と応酬。旗当番の時、あいさつを繰り返したお母さんを無視した上に、「うざい」と文句を言ったという話。などなど・・特に学年が上がるにしたがい、規範意識の低下を感じます。

保護者の声

- 学年が上がるに伴い、先生と生徒の区別を。先生は友だちじゃないので言葉遣いを徹底させるべき。伸ばす力と指導のメリハリが大事だと思う。

3月

美咲野小の

ある方からの連絡。道路でボール遊びをしていた子どもがおり、そのボールが車に当たった。注意しようとしたら、蜘蛛の子を散らすように逃げていった。走って家?に帰りドアの隙間から、外をうかがっていたとか。その方は用が終わり、再びその場所を通りかかると、まだボールで遊んでいたの、話を下さったのだそう。道路で遊んでいるから困る!という学校へのクレームではなく、地域の子どもは、よその子でもしつかり言って聞かせるということでの連絡でした。もちろん、学校でも該当の担任は、同様の指導をしたところ。子どもたちが学校で過ごす時間は長くはありますが、土日や夏休みなど家庭や地域で過ごす方が多いのです。学校と保護者と地域で子どもたちを見守り育て、こんなことではないかと思えます。子どもたちにも連絡下さり、大変感謝しています。